

令和8年度 学校経営方針

I 学校の歴史と地域

本年度【令和8年度】創立149年となり、150年の歴史を迎える地域に根付き、伝統のある学校である。

内田小学校は、校歌と共に「大松の歌」が歌い継がれている。以前、内田小学校の校門に大きな松が昭和59年まで、学校のシンボルとして立っていた。その大松のことを当時の卒業生が歌として残し、樹齢100年の幹の切り株は、今も玄関に飾られている。

学区は、小高い丘と平地からなる地域である。初代県知事「関口隆吉」氏や、加茂馬淵、本居宣長などに師事した「栗田土満」氏が在住していた地区であり、地区民は誇りに思っている。また、内田小の旧職員室を大切に地域で保存し、県の文化財に認定された。学校に対して協力的な地区民が多い。そのため、内田の名所や人物を集めた「内田100選」の制作にも学校に協力し平成14年に完成させるなど、郷土愛が強い地区である。

II 令和8年度教育課題

児童の実態

- ・小規模校・単学級故に、固定化された人間関係のため、安きに流れる
- ・素直で言われたことはやれるが受け身的で主体性に欠ける
- ・友だちに対して優しく接することができる
- ・人懐っこく仲間と共に活力を発揮できるが、交友関係は限定的な関わりを好む

運営面での課題

- ・多様な価値観や様々な環境で育てられた児童への柔軟な対応とかかわりと、家庭へのアプローチ
- ・主体的な学びをめざした授業改善、自治力の向上をめざした学級経営力の向上
- ・コミュニティ・スクールの土台作り

III 学校経営方針

I 経営理念

令和8年度内田小にかかわるすべての人（子供・職員・保護者・地域の方）のウェルビーイングを目指す

(1)相互信頼を基盤とした学校運営

教職員と児童、教職員と保護者、教職員相互、学校と地域の信頼関係があってこそ学校教育は成り立つ。

(2)人権感覚あふれる職員集団

自分の人権と同等に他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を職員一人一人もち、子供一人一人の存在や思いを大切にする職員集団を目指す。

(3)特別支援教育を柱とした教育の展開

「すべての子が『わかる・できる授業』をめざし、居心地のよい学校「明日も行きたくなる学校」の実現。

(4)社会に開かれた教育課程・学校

学舎コミュニティ・スクールを活用して、地域のひと・もの・ことをつなぎ、連携・協働を実現させ、地域と共にある学校づくりを推進。

(5)職員とその御家族の幸福度アップ

内田小の職員であることの喜びを、その御家族の方にも感じてもらえるよう、業務改善にスピード感をもって実行。

2 学校経営目標

【子供も 大人も 明日も行きたくなる学校】

3 めざす学校像

(子供にとって) ……明日も行きたくなる学校へ

わかる・できる授業がある

豊かな体験による学びの場、活躍する場、磨き合う場がある

学級に所属する、学校に通う居心地のよさがある

(保護者にとって) ……安心して我が子を送り出せる学校へ

明るく元気で個に寄り添うあたたかな先生がいる

信頼できる教職員集団がいる

(地域にとって) ……誇りに思う内田の子を任せられる学校へ

内田の子が校内外で活躍できる場がある

内田の子の笑顔が輝く場がある

信頼できる教職員集団がいる

(教職員にとって) ……やりがいに満ちた毎日を過ごせる学校へ

所属する幸せをかみしめることができる職員集団がいる

4 学校経営目標の具現化構想

(1)特別支援教育の理念を土台とした内田小=UD 内田小デザインを推進する。

すべての子にとって、居心地のよい学級・学校づくり・自治的機能が高まる学級・学校づくりと、居心地のよい教室・学校環境づくりを行う。

○居心地のよい学級・学校づくり

・やさしく聴く集団がある

・わからないこと、できないことに正直になれる場がある

⇒自己肯定感の高まる場へ

○自治的機能が高まる学級・学校づくり

・一人一人に仲間意識がある

・集団としての達成感がある

⇒集団肯定感の高まる場へ

○居心地のよい教室・学校環境づくり

・構造化（見れば分かる・行動が理解される）された場になっている

・クラスのルールが明確化されている

⇒安心感のある空間へ

(2)すべての子供が『わかる・できる授業』の実現に努める。

- ・すべての子どもたちが、学びに参加できる授業
- ・達成感が得られる授業
- ・ひと、ものとのかかわりをとおして、学ぶ楽しさを実感できる授業

(3)地域と連携して「ふるさとを愛する心」を育む

- ・地域のひと・もの・ことを積極的に取り入れ、ふるさとのよさがわかるようにする
- ・地域に向けて学校の方針や活動を発信【地域と共にある学校づくり】し、地域が誇れる子供を育成する

(4)働き甲斐のある自分たちの学校（職場）づくりへ、新たな工夫を盛り込む

- ・教師の合い言葉「もっと楽しい学校をつくろう！」に向けた提案
- ・働き方改革につながる提案

5 学校教育目標と本校で育みたい資質・能力

(1)学校教育目標

『地域に誇れる 地域が誇れる うちだっ子』

(2)本校で育みたい資質・能力

- ・協調性（子供たちがもっているよさを更に高めていく）
- ・主体性（本年度、特に育てたい力）
- ・コミュニケーション能力
- ・メタ認知

(3)本年度、特に力を入れていきたいアンケート項目

数値目標（児童評価）

- ①学校が楽しい 100%（内：強肯定 90%）
参考 R7 後期：100%（強肯定 84%）
- ②授業がわかる 98%（内：強肯定 60%）
参考 R7 後期：97%（強肯定 50%）
- ③学級目標に向かって何をすることがわかる 96%（内：強肯定 70%）
参考 R7 後期：97%（強肯定 60%）
- ④自分のめあてに向かって活動する 98%（内：強肯定 70%）
参考 R7 後期：97%（強肯定 56%）

IV 重点目標

『自分^{いち}でみんな^{いち}』

一（いち）は・・・今現在の自分史上のその先

自分一 ⇒自分の現状を理解【メタ認知】し、さらにその先の姿を目指すために、自分はどうすればよいか考えて、自ら動きだし、今の自分よりも少しでも成長した姿になった状態。

教師は、常に子供を観察（観る診る・聴き）、把握した上で、適切なアドバイスをを行い【主体性】が育つよう導く。

みんなー ⇒自分一を目指していく中で子供たちはみんなと助け合い、声を掛け合い、こうであればみんなも一番よい姿になるだろうと、共に成長しようとする状態。

教師は、子供がもっているよさ【協調性】がより高まるように導く。

⇒結果として子供は、自分一の積み重ねにより達成感『自己肯定感』が連続されていき、みんなと共にできた達成感『集団肯定感』も相乗的に高まり、個と共に集団としての質が向上していく。

教師としての最終イメージは、『主体性が育った個』と『協調性のある個』で、構成される集団を目指していく。

V 信頼に応える学校と職員のウェルビーイングに向けて

(1) 最悪の事態に備えて最善の準備をする。

- ・子供の命を最優先にした指導
- ・問題の早期発見・早期対応、報告・連絡・相談、事後の確認・記録に努める。
- ・校内における窓口の明確化（UD 統括＝生徒指導主任）
- ・福祉、医療などの関係機関との連携・協働し、専門家の指導の下、チームで対応する。

(2) 不祥事を校内から出さない。

- ・同僚性の構築
- ・法令遵守「3ゼロ＋2」の徹底、人権感覚、倫理観、使命感を強くもった服務
（3ゼロ：わいせつ、交通事犯、体罰　＋2：情報厳重管理・適正会計及び事務手続き）

(3) 質を高める教育予算の執行に努める。

- ・優先順位をもって執行
- ・複数の目でチェック

(4) 限られた時間を効果的・効率的に勤務環境改善（タイムマネジメント）をする。

- ・会議内容の精選及び時間設定（会議の終始時刻、タイムスケジュールの明記）
- ・校務における効果的な ICT 活用
- ・ICT 環境整備、積極的な活用（学校、各種おしらせ等を PDF でメール送信）
- ・記念月等の年休取得
- ・毎週水曜日の定時退庁日の設定
- ・16時30分以降は会議・面談を設定しない
- ・16時30分以降に来客用玄関に「勤務時間終了」の案内表示